

平成29年度（4月～3月）

評価区分	今回評価結果
A：順調に進んでいる。	30事業
B：おおむね進んでいる。	32事業
C：進捗が遅れている。	3事業
D：取組内容の見直しが必要。	0事業

# 上士幌町総合戦略施策検証シート

（平成30年5月1日現在）

1 地場産業で地域の活力を生み出すまち	P 1
2 子育て・教育の充実したまち	P 9
3 健康で安心して暮らせるまち	P 19
4 移住定住による人口減少をくい止めるまち	P 24
5 小さな拠点形成を目指すまち	P 27
プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち	P 30

# 1 地場産業で地域の活力を生み出すまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(29年度末)
雇用充足	59人（H27調査）	59人	
新規雇用創出人数	—	30人	18人 / 60%

◇移住施策と連携した地場産業の人材不足解消

KPI

無料職業紹介所の相談件数	300件	達成度(29年度末)	273件 / 91.0%
--------------	------	------------	--------------

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇無料職業紹介所の開設 雇用確保への対策として、町内の雇用情報をとりまとめて広く発信。移住・定住の流れを生み出す可能性を高める	相談件数 300件	273件 (求人:158、求職:115) 91.0% (採用16名)	・WEBサイト等による情報発信を随時行うとともに、電話及びメール等による求人・求職対象者へのジョブマッチングを実施。  30年度 ・(株)生涯活躍のまち かみしほろと連携を図り、求職者の把握に努め、求人事業所への紹介を行う。	A	(成果) 移住を予定している方の求職相談なども増え、希望者の要望に沿えるよう細かな対応や情報提供が来ている。  (課題) 求職相談者の絶対数が少なく、求人事業所へ十分に紹介できない。	町民課
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備	新規雇用者数 15人	—	・道の駅基本設計、ナイタイ高原牧場レストハウス基本設計・実施設計が完了した。設計にあたって、関係団体・住民で組織する「道の駅等整備推進委員会」を5回開催し検討してきた。 ・各施設の運営主体となる「観光地域づくり推進法人(DMO)」設立に向けた検討を、関係団体・住民で組織する「設立検討委員会・プロジェクトチーム」で行った。検討委員会は6回、プロジェクト会議は8回と3地域の視察研修を実施している。 ・各施設設計及び観光地域づくり推進法人設立の検討状況について、「町民説明会」を3回開催。また、団体、事業者に対する説明やヒアリング、町広報等による情報提供に努めてきた。  30年度 道の駅は、平成30年度に実施設計を実施。	A	(成果) ・各施設設計及び観光地域づくり推進法人設立の検討を連携して進めており、運営側の意見を施設設計に反映することができた。 ・ナイタイ高原牧場レストハウスは、実施設計が完了し、平成30年度に建設工事を実施する。平成31年6月のオープンを目指した準備を行う。 ・観光地域づくり推進法人は、関係団体、機関、企業の理解のもと、平成30年5月に上士幌町観光地域商社として「株式会社 karch」(かち)が設立される。観光を切り口として、電力小売り等多様な事業を展開し、産業振興や地域づくりに貢献していく。  (課題) ・道の駅実施設計や観光地域商社事業活動など、町民をはじめ、関係機関、団体、事業者から様々な意見を頂きながら推進する必要がある。	商工観光課

◇農林業の活力向上

K P I

農業生産法人数（H26年4月現在19件）	新規2件	達成度(29年度末)	1件 / 50%
新規就農・新規雇用の青年等	10人	達成度(29年度末)	3人 / 30%
青年等就農計画（平成27年4月現在2件）	新規3件	達成度(29年度末)	2件 / 67%
農業後継者の有配偶率	増加		—
上士幌町農商工連携補助事業によって商品化した件数	2件/年	達成度(29年度末)	2件 / 100%
バイオマスエネルギー地域利活用（農業：家畜糞尿、林業：木質チップ）	新規3件	達成度(29年度末)	3件 / 100%

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇新規就農対策事業 本町の主要産業である農業の新規就農対策を推進し、農家戸数と農業者の確保を図る	新規就農人数 3件5人	新規就農人数 2件3人	・経営譲渡による新規就農者1件と28年度面談者1件について、青年等就農計画の認定に向け農業委員会、農協、普及センターと連携して取り組みを行った。	B	(成果) ・2件の青年等就農計画を認定し、新規就農が図られた。 (課題) ・引き続き関係機関と連携し、新規就農対策を推進していくことが必要である。	農林課
◇家畜糞尿処理バイオガスプラントの導入による家畜糞尿処理対策への支援 ◇畜産業の大型化に伴う家畜糞尿処理対策と発生するバイオガスエネルギーの利活用	バイオガスプラント整備 3か所に対する支援 新規雇用人数10名	新規雇用人数10名	・バイオガスプラント整備に係る支援として、建設に係る経費の一部に対し融資を行った。また、北電との系統連携に係る電柱等の整備費用の支援を行った。 ・バイオガスプラント運営開始に向け新規雇用を図った。	A	(成果) ・3ヶ所のバイオガスプラントの建設が完了し、運営が開始された。 ・バイオガスによる発電が行われ、エネルギーの利活用が図られた。 ・バイオガスプラントの運営及びプラントから発生した消化液の散布等、関連企業も含め10名を超える新規雇用が図られている。	農林課
◇農業におけるアウトソーシング化への支援 地域農業の効率性・収益性向上と労働力の軽減	新規哺育事業への支援 新規雇用人数 6名		・哺育・育成センターの設立に向け、上士幌町地域資源利活用推進協議会の設立準備会を立ち上げ、施設整備に向けた課題の整理、調査研究を行った。	B	(成果) ・育成牛の新たな預託施設整備に向けて検討が進んだ。 (課題) ・適正な施設規模とする為、乳牛の増頭数の把握が急がれる。	農林課
◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援（農業後継者）			・上士幌町農業青年カップリングパーティー（JA青年部と十勝管内の女性との交流会）の開催（30年1月13日）11名参加、6名マッチング ・農業青年婚活交流会（JA青年部と札幌近郊の女性との交流会）の開催（29年12月8日）7名参加、2名マッチング	B	(成果) ・29年度5名の農業後継者が結婚し、うち4名が当該事業の婚活交流会等でカップリングした者であり、地道な活動の成果が表れてきている。 ・マッチングした者のうち交際を継続し	農業委員会事務局

			・ A L L と ち ち 札 幌 交 流 会 ( 清 水 、 池 田 、 陸 別 、 音 更 、 土 幌 、 上 土 幌 に よ る 実 行 委 員 会 形 式 で 、 4 町 の 農 業 青 年 と 札 幌 近 郊 の 女 性 と の 交 流 会 ) の 開 催 ( 1 月 27 日 ) 上 土 幌 町 参 加 者 無		て いる 者 も お り 、 今 後 も 事 業 の 継 続 と 新 た な 取 り 組 み を 進 め る 事 で 更 な る 成 果 が 期 待 可 能 だ け る 。 ( 課 題 ) ・ 参 加 す る 青 年 の 確 保 が 難 し い 状 況 に な っ て いる 。	
◇ 森 林 整 備 計 画 の 推 進			・ 森 林 経 営 計 画 に 沿 っ て 適 正 な 森 林 整 備 を 行 っ た 。	B	( 成 果 ) ・ 適 正 な 森 林 整 備 を 実 施 さ れ た 。 ( 課 題 ) ・ 森 林 経 営 計 画 に 未 参 画 の 山 林 に お い て 、 伐 採 後 に 植 栽 さ れ て な い 林 地 や 不 在 町 民 所 有 の 山 林 が 放 置 さ れ て いる 実 態 が あ る 。	農 林 課

◇ 建設業の活力向上

K P I

建設業における求人	充足	達成度(29年度末)
-----------	----	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇ 社会資本整備の充実		当初予定の各整備事業は完了	・ 道路改良舗装事業 ( 1 2 区 4 号 線 道 路 改 良 舗 装 事 業 、 ま ち な か 住 宅 道 路 改 良 舗 装 事 業 ) ・ 道路舗装補修事業 ( 上 土 幌 鉦 山 線 道 路 補 修 事 業 、 八 千 代 幹 線 道 路 舗 装 事 業 、 萩 ヶ 岡 東 6 線 道 路 舗 装 補 修 事 業 ) ・ 歩道改修事業 ( 上 土 幌 4 0 号 歩 道 改 修 事 業 ) ・ 水道施設整備事業 ( 東 部 浄 水 場 取 水 施 設 改 修 事 業 ) ・ 水道管布設整備事業 ( 5 箇所 )	A	( 成 果 ) ・ 道 路 改 良 舗 装 の 再 整 備 に つ い て 路 盤 構 成 等 を 見 直 し 耐 久 性 の 向 上 が 図 ら れ た 。 ( 課 題 ) ・ 今 後 も 再 整 備 や 未 舗 装 箇 所 の 整 備 に よ り 安 全 な 通 行 を 図 っ て い く 必 要 が あ る 。 ・ 安 全 で 安 定 し た 給 水 等 を 行 う た め 、 今 後 も 計 画 的 に 施 設 改 修 が 必 要 で あ る 。	建設課
◇ インフラの維持管理事業の推進		当初予定の各整備事業は完了 ( 災 害 復 旧 事 業 に つ い て は 2 ヶ 年 工 事 の た め 継 続 実 施 中 )	・ 橋 梁 定 期 点 検 事 業 3 6 橋 ・ 橋 梁 長 寿 命 化 修 繕 事 業 2 橋 ・ 町 道 等 維 持 管 理 事 業 ( 機 械 除 草 、 路 面 整 正 、 道 路 側 溝 等 清 掃 ) ・ 公 共 下 水 道 事 業 ( 長 寿 命 化 計 画 に 基 づ き 施 設 改 修 ) ・ 水 道 施 設 維 持 管 理 事 業 ( 東 部 浄 水 場 次 亜 鉛 塩 素 注 入 設 備 更 新 、 東 部 浄 水 場 取 水 施 設 改 修 工 事 ) ・ 災 害 復 旧 事 業 ( 萩 ヶ 岡 橋 )	B	( 課 題 ) ・ 大 雨 等 の 自 然 災 害 や イ ン フ ラ 施 設 の 老 朽 化 へ の 対 応 は 今 後 ま す ま す 増 え て く る と 予 想 さ れ る た め 今 後 も 計 画 的 に 改 修 を 行 う 必 要 が あ る 。 ・ 農 業 機 械 の 大 型 化 や 凍 害 に よ る 舗 装 道 路 の 破 損 等 へ の 対 応 策 に つ い て 検 討 し て い く 。	建設課
◇ 建設業における人材育成に対する支援			・ 季 節 労 働 者 の 失 業 期 間 中 の 就 労 対 策 と し て 、 明 渠 排 水 路 内 の 雑 木 処 理 等 を 実 施 し た 。 ・ 無 料 職 業 紹 介 所 事 業 に よ る 支 援	B	( 成 果 ) ・ 季 節 労 働 者 の 就 労 対 策 を 実 施 雇 用 者 数 : 2 8 名 作 業 日 数 : 9 日 間 ( 課 題 ) ・ 通 年 雇 用 化 に は 結 び つ い て い な い 。	町民課

◇商工業の活力向上

K P I

空き店舗等における新規開業や新たな利用	5件	達成度(29年度末) 3件 / 60%
新規商品開発件数(H26 4件)	延べ20件	達成度(29年度末) 6件 / 30%

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇商工業者に対する資金支援			<ul style="list-style-type: none"> <li>・上士幌町中小企業融資条例に基づき、資金支援を行った。</li> <li>・利用実績 21件、91,330千円の融資。(運転資金 12件、設備投資 9件)</li> <li>・H28実績は6件、前年比3.5倍の利用実績。</li> <li>・平成29年2月に「融資枠拡大」と「保証料全額補給」の改善を図り、12月には「預託金の増額」を実施し融資全体枠の拡大を図った。</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済活動を活性化させる旺盛な資金需要に対し、適切な制度改善を図って供給することができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商工業者の経営の安定化を継続的に支援していく必要がある。</li> </ul>	商工観光課
◇商店街活性化支援			<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街の活性化を図るため「商店街賑わい事業」へ支援(補助)した。(補助額 16,000千円)</li> <li>・中元大売出し事業(10%還元セール)実績 売出期間:7月20日~8月7日(8/4予定数終了) 売上総額:51,482千円(目標額 50,000千円) 交換者数:1,207人</li> <li>・歳末売り出し事業(10%還元セール)実績 売出期間:11月27日~12月25日 (12/22予定数終了) 売上総額:102,567千円(目標額 100,000千円) 交換者数:1,562人</li> <li>・新春大売出し事業(5千円で1回抽選)実績 売出期間:平成29年12月26日~ 平成30年1月27日 売上総額:33,042千円</li> <li>・新春運だめしサイコロゲーム事業実績 開催日:平成30年1月2日 開催内容:ココアの無料提供、サイコロゲーム等</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売上目標額を予定期間前に達成するほどの盛況であり、商店街の活性化を図ることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「商店街賑わいを事業」内容の工夫を図りつつ、継続的に支援していく必要がある。</li> </ul>	商工観光課
◇起業支援及び空き店舗対策の推進			<ul style="list-style-type: none"> <li>・起業希望者に対して、創業支援促進事業や町中小企業融資制度により資金支援を行った。</li> <li>・創業支援促進事業にて、1件3,000千円の支援を実施。(ラーメン店開業 H30.8開店予定)</li> <li>・商工会が主管し、商店街にある「遊ゆう館」(旧かみしほろ情報館)の利用に向けた公募・事業者決定を行い、コーヒー・スパイス・手作り品等を販売する店舗が開業した。(クラフトキッチン)</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創業支援促進事業による支援により、1件の新規開業が図られた。また、遊休施設を活用した店舗も誕生した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報等により制度の周知を商工会と連携して行う必要がある。</li> <li>・アンケートによると、町内事業者の約</li> </ul>	企画財政課 商工観光課

			30年度 ・H29 商工会が実施した事業者アンケートをもとに、商店等の事業承継や空き店舗対策などの検討をし、商店街振興のための計画を支援する。 ・ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにより「起業家支援プロジェクト」を開始し、支援いただいた寄附者に、オープンするお店の食事券のインセンティブをつけ、起業を支援する。		21%が廃業予定との結果になっている。町民生活を守るため、商店街のあり方を検討し、事業承継に向けた新たな施策の検討が必要となっている。	
◇商工業者の後継者育成・雇用確保			・創業支援促進事業や町中小企業融資制度により資金支援を実施し雇用確保を図った。 ・創業支援促進事業にて、1件3,000千円の支援を実施。(ラーメン店開業 H30.8開店・パート1名雇用予定) 30年度 ・H29 商工会が実施した事業者アンケートをもとに、商店等の事業承継や空き店舗対策などの検討をし、商店街振興のための計画を支援する。	A	(成果) ・創業支援促進事業による支援により、1件の新規開業があり、雇用拡大につながった。 (課題) ・広報等により制度の周知を商工会と連携して行う必要がある。 ・アンケートによると、町内事業者の約21%が廃業予定との結果になっている。町民生活を守るため、商店街のあり方を検討し、事業承継に向けた新たな施策の検討が必要となっている。	商工観光課
◇地域資源を活用した商品開発			・地域資源を活用した新商品の開発に対して、資金支援を行う上士幌町農林商工等連携・ビジネス創出促進事業について、グループ申請を個人事業者でも申請できるように平成29年度から改善し、利活用の促進を図った。 ・上士幌町農林商工等連携・ビジネス創出促進事業に4件2,651千円の支援を実施。地域資源を活用した新商品は2つ誕生(①冷凍コロッケ開発、②ハヤヒカリ大豆納豆)した。 30年度 ・整備される「道の駅」「ナイタイ高原牧場レストハウス」で販売する商品、サービスの開発を行う。	B	(成果) ・地域資源を活用した新商品の開発に対する支援により、2つの商品が誕生した。 ・制度改善により、H30では既に2件の申請がある。 (課題) ・新たに地域資源を活用した新商品の開発を行う人や事業者を発掘していく必要がある。 ・道の駅等のオープンに向けて、年間10商品を目標に、多様な商品を開発していくことが必要となっている。	商工観光課

◇観光産業の活力向上

KPI

観光入込数：H26年360千人	415千人(15%増)	達成度(29年度末)	0千人 / 0%(未集計)
-----------------	-------------	------------	---------------

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇インターネット不感地帯の解消促進			・道の駅、ナイタイ高原牧場レストハウスの各施設設計	B	(成果)	商工観光課

<p>・インバウンド等観光客誘客に求められる高度情報網整備</p>			<p>において、W i f i 環境を整備こととしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設店舗営業のレストハウスは今シーズンも問題なく利用できた。</li> </ul> <p>30 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村地域における光回線の整備に向けた、調査・設計を行う。</li> <li>・既存 F W A（無線通信網）の回線増強工事を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設を予定している道の駅では W i f i 環境を整備する予定である。</li> <li>・他道の駅の整備状況の調査を行った。</li> <li>・レストハウスは今シーズンも問題なく利用できた。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぬかびら源泉郷以北の携帯電話不感地帯について、通信事業者によるエリア拡大は採算性等の問題から整備が進まない現状であり、通信事業者に整備を要望するとともに、町独自の基地局整備について検討する。</li> <li>・農村地域における光回線等による情報通信基盤の更なる高速化・安定化が求められているが、整備には多額の経費を要するため、通信事業者では採算性等の問題から整備が進まない現状である。通信事業者に対する整備要望を行うことと併せて、既存 F W A（無線通信網）の改善について検討する。</li> </ul>	<p>企画財政課</p>
<p>◇インバウンドを含む観光客誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客の受け入れ環境整備、効果的な観光プロモーションの展開、情報発信の強化</li> <li>・滞在・体験型観光プログラムの開発、担い手となる人材の育成</li> <li>・老朽化した観光施設等のユニバーサルデザインに配慮した再整備</li> </ul>	<p>観光客入り込み数</p> <p>360千人（H26）→ 415千人（H31） 15%増</p>	<p>H29 上期のみ発表</p> <p>287.8千人 前年同期比 127.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験パンフレット、観光パンフレット、インバウンド向け観光パンフレットを制作し、観光拠点への配置、イベントやプロモーション活動において配布し P R を行った。</li> <li>・体験観光では、7月～8月に「夏の上士幌体験マルシェ」を開催し、657名が参加。また、2月に「冬の上士幌体験マルシェ」を開催し、402名が参加。</li> <li>・レンタサイクルでは、12台の自転車を用意し、4月～10月で計100人の利用があった。前年比の2.5倍の利用率となっている。</li> <li>・北十勝4町が連携して、国際旅行博（タイ、台湾）に参加しプロモーション活動を実施。</li> <li>・「上士幌町観光地域づくり推進法人（DMO）」のコンセプト、組織体制、事業展開の検討を関係団体・住民で組織する「設立検討委員会・プロジェクトチーム」で行った。検討委員会は6回、プロジェクト会議は8回と3地域の視察研修を実施している。平成30年5月に関係団体、機関、企業の理解のもと、上士幌町観光地域商社として「株式会社 karch」（カチ）が設立される。</li> </ul> <p>30 年度</p>	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光入込は、H29 通期統計が未発表である。本町の傾向としては「週末、天候に恵まれたこと」「タウシュベツ川橋梁の崩落情報」「士幌町道の駅リニューアル開業」などの要因により、増加と見込まれる。</li> <li>・上士幌町観光地域商社「株式会社 karch」（カチ）では、観光を切り口として、電力小売り等多様な事業を展開し、産業振興や地域づくりに貢献していく。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興計画策定では、観光協会をはじめ各種団体・機関・事業者の協力と上士幌町観光地域商社の稼ぐ力を背景とした取り組みが必要となる。</li> <li>・体系的に戦略を立てる上で、人材育成やインバウンド対応の検討は必須となっている。</li> </ul> <p>A</p>	<p>商工観光課</p>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町の観光を、戦略的に推進するため「上士幌町観光振興計画」を策定。</li> <li>・上士幌町観光地域商社が観光庁「日本版DMO候補法人」の登録を目指す。</li> </ul>		
--	--	--	---	--	--

◇企業誘致

KPI

新規雇用者数	30人増加	達成度(29年度末)	18人 / 60%
--------	-------	------------	-----------

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇企業誘致対策事業	新規雇用者数 30人	18人 60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上士幌町の資源、暮らしやすさを首都圏にてPRするため、ニセコ町、中標津町との3町合同企業誘致セミナーを8月29日に東京都千代田区にて開催した。(67社97名参加)</li> <li>・地域経済循環創造事業交付金の活用により、旧北居辺小学校を改修した十勝製菓株式会社の製造工場が稼働し、製造を開始したことにより、デザイン推進員による新商品のパッケージデザイン等の協力を行い、ふるさと納税を活用し、売上高の確保を図った。</li> </ul>	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー参加企業3社が後日来町した。本町への進出等を視野に入れての来町だったが、現在のところ、具体的な企業誘致には結びついていない。</li> <li>・十勝製菓株式会社の製造工場が稼働を始め、新たな雇用が生まれ、8月より商品の販売を開始した。</li> <li>・テレワーク事業を活用し企業がサテライトオフィスを設立し、雇用が生まれた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規雇用があっても、町内では働ける人材が不足している状況にある。移住者等へのPRを強化する必要がある。</li> </ul>	企画財政課

◇地産品の消費拡大

KPI

特産品のレシピ開発	30品	達成度(29年度末)	29品 / 96.7%
-----------	-----	------------	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇ふるさと納税特産品消費拡大プロモーション	レシピ開発 30品	29品 96.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、新たなレシピ開発を進める。</li> </ul>	A	順調にレシピ数が増えている。	企画財政課



## 2 子育て・教育の充実したまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(29年度末)
合計特殊出生率	1.61	1.90	H25～29の数値に基づきH31公表予定
学力・体力・体験		北海道トップレベル	

◇子育て世帯における経済的支援の一体的実施

KPI

子育てしやすいと感じる人の割合47.1%（H27アンケート調査）	増加	達成度(29年度末)	－
認定こども園における待機人数（H27ゼロ）	維持	達成度(29年度末)	維持

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇高校生世代までの医療費の無料化			<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども医療費助成事業受給者数 639名 (うち高校生69名)</li> <li>子ども医療費助成額 15,731千円 (うち高校生1,241千円)</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <p>子育て世帯への経済支援により子育ての不安解消につながっている</p>	保健福祉課
◇教育に係る保護者負担の軽減 ○幼児に係る保育・教育費の保護者負担の軽減 ・2km以上の遠距離通園者への補助  ○児童・生徒に係る教育費の保護者負担の軽減 ・就学援助  ・補助教材補助	保育料無料化   修学旅行経費の助成	保育料無料化実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定こども園の保育料無料化の実施。</li> <li>認定こども園までの往復の距離×2回×20円×通園日数の補助を実施。 平成29年度 交付人数 26名</li> <li>就学援助(学用品費・給食費・新入学児童生徒学用品・PTA会費・体育実技費・修学旅行費等)の実施 交付人数 小学生45名 中学生24名</li> <li>補助教材補助 各小中学校児童生徒一人あたり2,000円分を各学校に配当 配当人数 小学生230名 中学校127名</li> <li>30年度 就学援助の新入学児童生徒への早期交付 修学旅行経費の約1/2を助成 小学生 一人当たり11,000円 中学生 一人当たり33,000円</li> </ul>	B	<p>(成果)</p> <p>・無料化等により利用児童が増えたため、施設が手狭になり、山開センター和室を保育室に改修(平成30年4月より使用)。</p> <p>(課題)</p> <p>・通園者の一部に通園バスの運行要望があるが、通園費補助の定着が見られており、経費が嵩む通園専用バスの運行は現時点で想定していない。</p> <p>(課題)</p> <p>・早急な支援が必要な保護者に対する速やかな支援(援助金の交付)</p>	幼児教育課   教育推進課
◇子育て支援・少子化対策建設助成金交付事業			<ul style="list-style-type: none"> <li>新築住宅 6件 9,000千円</li> </ul>	B	新築住宅については昨年度より減少して	建設課

			対象子ども 9名 ・中古住宅 4件 2,530千円 対象子ども 6名		いるが、中古住宅については増加している。	
--	--	--	--	--	----------------------	--

◇出産や子育てにおける安心の確保

KPI

育児短時間勤務を導入している事業所数	増加	達成度(29年度末)	—
--------------------	----	------------	---

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
育児短時間勤務の推進			・無料職業紹介所の「企業登録申請時」などの機会に情報収集、PR活動を実施 30年度 ・(株)生涯活躍のまち かみしほろと連携を図り、求人事業所の訪問時などを利用し、制度周知に取り組む	C	(課題) 出産や子育てをする従業員のいる職場に対し「制度の周知」など継続した広報活動が必要	町民課
地域で育む子育てサロンの開設			・認定こども園内に設置している「子育て支援センター」において、次の事業を実施 1. 親と子が安心して過ごせる居場所として、子育てに向き合うゆとりと自信を高める場の提供 <すくすく広場> 毎週月曜日 対象 0～2歳誕生日までの子どもと保護者・妊婦 <なかよし広場> 毎週月・水・金曜日 対象 0歳～就学前の子どもと保護者 2. 親子で取り組める製作や音楽リズム、外遊び等の提供 <なかよしチャレンジ> 月1回 第2金曜日 対象 0歳～就学前の子どもと保護者 3. 妊婦同士や地域との交流の場・機会の提供により母親の孤立を防ぎ、出産後の育児不安の解消を図る <マミーズ広場> 毎月第1木曜日・第3金曜日 対象 妊婦 4. 同月齢の子どもを持つ母親同士や妊婦同士の交流、子育て相談や情報提供などの機会の提供により孤立を防ぎ、育児負担の軽減を図る <ベビーズ広場> 毎週木曜日 対象 0～1歳誕生日までの親子(第1子)・妊婦 5. 集団での利用が苦手な親子を対象に、個人または少人数で利用できる場の提供 <ちいさな広場> 毎週火・木曜日 対象 0歳～就学前までの子どもと保護者 6. 育児サークルの場に職員が出向き、育児相談や遊び	B	(成果) ・保育料無料化に伴い、認定こども園に入園する児童が増加し、子育て支援センター利用者が減少傾向にあるが、遊びの広場の時間延長により、利用しやすいような事業設定に変更してきている。 ・平成29年度施設利用実績(延べ人数) 大人 1,141名(前年度 974名) 子ども 1,476名(前年度 1,181名) 計 2,617名(前年度 2,155名) (課題) ・認定こども園・保健師・子ども発達支援センターが連携を図り、要支援の児童や保護者への継続した支援を充実させていく必要がある。 ・「ちいさな広場」については、参加者がいないことが多い。	幼児教育課

			<p>の提供をして、子育てを通した仲間作りの応援をする</p> <p>&lt;子育てサークル支援&gt; 月1回 第2火曜日</p> <p>7. 来所時及び電話により子育てに関する様々相談に対し、育児不安の解消を図る</p> <p>&lt;子育て相談&gt; 毎週月～金曜日</p> <p>8. あそびの広場に認定こども園栄養士が出向き、子どもの食事に関する不安・疑問を軽減する</p> <p>&lt;栄養相談・栄養講話&gt;</p> <p>栄養相談2回 ・栄養講話1回</p> <p>9. 認定こども園の給食やおやつを試食により、乳幼児期に適した食事やおやつの味・量などの理解を深める</p> <p>&lt;ほろんランチ&gt; 年3回</p> <p>&lt;ほろんおやつ&gt; 年2回</p> <p>10. 子育てに関する知識を学び、育児不安の軽減を図る</p> <p>子育て講演の開催</p> <p>&lt;講演会&gt; 2回 &lt;講座&gt; 1回</p> <p>11. 未就学年齢の子どもを持つ親子に、保育所の雰囲気やあそび、生活などの体験</p> <p>&lt;私立保育所開放日&gt;</p> <p>各私立保育所(2ヶ所) 年3回</p> <p>12. 育児疲れの解消、急病や就労形態の多様化などに伴う一時的な保育に対する需要に対応する為、一時的な保育を実施することにより児童の福祉の増進を図る</p> <p>&lt;一時保育&gt; 月～金曜日</p> <p>対象 1歳～就学前の子ども</p> <p>13. 少子化・核家族化が進む中、仕事と育児の両立の為、地域において会員同士が育児に関する相互援助活動を行う事を支援する</p> <p>・安心して子育てができる環境づくり及び児童福祉の向上を図る</p> <p>&lt;子育てサポート事業&gt;</p> <p>会員の登録制(依頼会員・協力会員・両方会員)</p> <p>料金 30分300円 (町より半額の助成)</p>		
病児・病後児保育事業の検討			<p>・病児・病後児保育を実施する管内の保育園、小児科医院の視察等を実施。</p> <p>・音更町内小児科を視察</p> <p>・町内医療関係者と連携し、管内で病児・病後児保育実施個所の視察を検討。</p>	<p>C</p> <p>(成果)</p> <p>・管内の病児・病後児実施施設の概要を調査済み。</p> <p>・音更町内小児科を視察(課題)</p> <p>医療機関との視察を検討したが、実施できなかった。本町での実施に向け、医療</p>	<p>幼児教育課</p>

					機関と更に連携し具体的な検討を進めていく。 ※子ども・子育て支援計画～平成31年実施に向け検討
--	--	--	--	--	--

◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化

KPI

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録（小学5年・中学2年実施）	北海道トップレベル	達成度(29年度末)	全国平均より上位の種目数				
				小5男	小5女	中2男	中2女
			27年度	2/8	1/8	1/8	1/8
			28年度	3/8	4/8	2/8	3/8
			29年度	4/8	8/8	4/8	3/8
全国学力・学習状況調査の平均正答率	北海道トップレベル	達成度(29年度末)	全国平均より上位の領域数				
				小6	中3		
			27年度	0/14	1/14		
			28年度	10/15	4/15		
			29年度	1/15	3/16		
地域資源を生かした体験活動の推進	北海道トップレベル	達成度(29年度末)	一部類似事業の統合を行うとともに、地域資源をいかした特色のある体験事業を実施した。				
地元からの上高進学率 38%（H23～27平均）	50%以上	達成度(29年度末)	15% / 30%（30年度入学者）				

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇学力・体力・体験の北海道トップレベルを実現 ○上士幌町子ども教育ビジョンの具現化 ～【「かみしほろ学園構想」(仮称)の策定】  ○幼児から高校まで一貫性のある教育プログラムの推進 ・共通教材の開発、導入 ・地域総ぐるみのキャリア教育(一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育てていく教育)支援	○全国学力・学習状況調査より(小学6年・中学3年実施) ・将来の夢や目標を持っている児童・生徒 小学校 89% 中学校 68% (H22～26平均)→100% (H31) ・授業以外の勉強時間1時間以上の児童生徒の割合 小学生 平日 43% 土日 51% (H22～26平均)→80%以上 (H31) 中学生 平日 57% 土日 59% (H22～26平均)→90%以上 (H31)	16頁《別記》に記載	かみしほろ学園の組織改編(3部会、1室)を行い、かみしほろ学園事業を推進した。 【かみしほろ学園推進本部の取組】 ①総会の開催(4月26日) ②役員会の開催(5回) ③かみしほろ学園推進本部だよりの発行(15回) 【連携教育部会の取組】 ①幼保小中高の子ども達と一緒にいる持続可能な地域社会をつくるための教育(ESD)実現に向け、ふるさと学習の体系化を検討。 ②漢字検定、英語検定、数学検定の実施(英検3回、漢検3回、数検3回)。 ③中学3年生、高校2年生を対象とした「カタリ場北海道」の出前授業(6/26、7/14)を通じたキャリア教育の推進。 ④吹奏楽器の購入・修繕	B	(成果) 組織改編を行い、かみしほろ学園を推進した。 (課題) ・持続可能な教育、iBノート、サポートブック「アーチ」等の取り組みを軸に、一層、幼保小中高連携を進める必要がある。	教育推進課 幼児教育課 生涯学習課

<p>○地域とともにある学校づくり「コミュニティ・スクール制度」の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度から導入</li> </ul> <p>○課外活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師等の積極的な課外活動での活用</li> <li>・少年団から高校までの課外活動の環境整備と指導者の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を毎日食べている児童生徒の割合 小学生 99% 中学生 93% (H23~26 平均) →100% 維持継続</li> <li>・全国学力・学習状況調査の平均正答率→北海道トップレベル</li> </ul>		<p>【研修開発部会の取組】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①かみしほろ学園教育研究大会の実施(日時:10月3日 75名参加)。</li> <li>②自己管理手帳「iBノート」の導入と活用(認定こども園シール帳、小学校ノート、中学校手帳、高校手帳、4月配付)。</li> <li>③子育てサポートブック「アーチ」の作成と配布(上小 新入生他50名に配布)。</li> <li>④芸術鑑賞会の実施(小学校9/1)。</li> </ol> <p>【教育研究・複式教育部会の取組】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①家庭学習の手引き発行(4月)</li> </ol> <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①秋田県東成瀬村教育視察の実施 (日時:6月25日~27日 8名参加)。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール委員会・研修会の開催(各3回開催)。</li> <li>・各小中学校、学校運営協議会の開催。 (上小5回、萩小4回、糠小4回、上中6回)</li> <li>・全国CS研修会への参加(岐阜市 3名参加)。</li> <li>・コミュニティ・スクールコーディネーターが上士幌小学校(週2日)、上士幌中学校(週1日)に駐在し、CSレター(カレンダーを含む)の作成、学校と地域の連絡調整等を実施。</li> <li>・CSレター「きずな」の発行(13号~24号)。</li> <li>・「ゆめ育」応援団の募集と登録 (現登録数 企業34、団体5、個人80)</li> <li>・2017川柳コンテストの実施(78名174作品)。</li> </ul> <p>30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼から高までのつながりを持った地域とともにある学校づくりを進めるため、認定こども園にコミュニティ・スクールを導入する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校及び上士幌高校の吹奏楽部への外部講師招聘(8回)</li> <li>・小中高の卓球部への、外部講師招聘(2回)</li> <li>・吹奏楽部や卓球部などの活動における、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士の連携。</li> <li>・一流プロジェクト事業の実施 幅広い分野から一流の講師を招聘し、子ども達に夢</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校運営委員会において熟議を行い、コミュニティ・スクール委員会で情報共有やCSに関する理解促進が図られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CSコーディネーターの活動を中心に、各学校運営協議会の活性化と、「ゆめ育応援団」の機能の充実及び町民に対する情報発信を図ることが必要である。</li> </ul> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部課外活動へ外部講師を招聘するとともに、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士の連携を行った。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに多くの課外活動において外部講師の活用を進めるとともに、少年団と中</li> </ul>	
--	---	--	--	---	--

<p>○確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級教諭の配置</li> <li>・チームティーチングによる習熟度別指導の実施</li> <li>・小学校への専科教諭配置の検討</li> <li>・土曜学習の実施</li> <li>・放課後対策の充実</li> <li>・外国語活動教育の推進</li> </ul>			<p>を持つことや目標に向かって努力することの大切さを伝える事業を実施。(ダンス&amp;サイレントコメディ、ビジョントレーニング、けん玉パフォーマンス)</p> <p>30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一流プロジェクト事業は、かかる費用の面から特定の少年団や部活動等を対象とした事業ではなく、全ての子ども達を対象とした事業とするよう見直しを行う。</li> <li>・上士幌小学校1年・2年・4年・5年を2学級に分け、小1プロブレムの解消と児童一人ひとりと向き合える35人以下学級の実施による教育活動を推進。(教諭4名配置)</li> <li>・上士幌小学校3年生・6年生の学級に学校教育推進支援教員を各1人配置し、習熟度別指導ができるような体制整備を推進。(TT2名配置)</li> <li>・体育と音楽のTTを配置し、体力向上や芸術分野における豊かな感性の育成と合わせ、各教員が子ども達一人一人と向き合える体制整備を推進。(TT2名配置)</li> <li>・一部業務委託を行い23回実施。 ※イングリッシュゲーム、サイエンス、自然体験等</li> <li>・各小学校で「ゆめ育」応援団等と連携・協働して「放課後ほろんクラブ」を実施。 (上士幌小学校16回、菟ヶ岡小学校4回、糠平小学校4回)</li> <li>・土曜学習(イングリッシュゲーム)を通じた英語学習</li> </ul>	<p>学校、中学校と高校等の連携を図らなければならない。</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級教諭や学校教育推進支援教員・専科教諭の配置による体制の整備により、きめ細かな学習・生活の指導が図られた。</li> <li>(成果)</li> <li>・様々な学習や体験を通し、子ども達の土曜日の生活の充実を図られた。</li> <li>(課題)</li> <li>・プログラムの充実等により参加者の増加を図るとともに、子ども達のコミュニケーション能力を育むため、「ゆめ育」応援団をはじめとした多様な地域人材を活用した事業を行う必要がある。</li> <li>(成果)</li> <li>・様々な分野の体験を提供し、子ども達の放課後の過ごし方の充実を図られた。</li> <li>(課題)</li> <li>・体験内容の魅力化を図り、地域の様々な人材と連携を進め、より充実した放課後対策を進める必要がある。</li> </ul>	
---	--	--	---	--	--

<p>・読書の推進</p>			<p>の実施。(12回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高等学校に外国語指導助手を派遣。上士幌小学校に週3日常駐し、外国語活動のみではなく、その他の授業や放課後活動にも一緒に参加することにより、コミュニケーション能力の向上に努めた。</li> <li>・認定こども園に外国語指導助手が常駐。私立保育所にも月1回ペースで出向き、外国語に親しむとともにコミュニケーション能力の向上に努めた。</li> </ul> <p>読書コーディネーターを町内小中学校に駐在(上小週2日、上中週1日)させ、司書教諭とともに計画的に学校図書室の整備・充実に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園、小中学校における図書の購入。</li> <li>・中学校におけるゆめ育応援団による図書整備。</li> <li>・図書館、お話し会「カッコウ」、ゆめ育応援団等による読み聞かせの実施。</li> <li>・図書館の事業(巡回文庫、ブックスタート、図書館講演会等)の実施。</li> <li>・子どもの読書推進の啓発のためのイベントの実施。(2回)</li> <li>・子どもの読書アンケート調査の実施。(アンケート対象:小2、小5、中2、保護者)</li> </ul> <p>《その他学力向上に向けた対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査により子ども達の学力が二極化傾向にある。公教育のサポートとして生徒個々の学力に応じた個別指導の対策を進めていくために、「公営塾」による無料の夏期講習と冬期講習を実施。</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書コーディネーターを中心に、図書館と連携しながら、主に学校における子どもの読書推進を図られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」に基づき、地域全体で、子どもの読書推進を図る必要がある。</li> </ul>
<p>○体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ環境の整備</li> </ul> <p>・少年団活動、部活動の活性化</p>	<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録(小学5年・中学2年実施)</p> <p>→北海道トップレベル</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設等の整備</li> <li>テニスコート照明増設、スケートリンク照明スイッチ増設、格技場簡易トイレ及び少年野球用防球ネットの購入等。</li> <li>・マラソン大会、ミニバレー大会、スケート大会ほか各種スポーツ大会の実施。</li> <li>・水泳、スケート、スキーほか各種スポーツ教室の実施。</li> <li>・スキー普及対策として小中学生にぬかびら源泉郷スキー場のシーズンパスポートを交付。</li> <li>・少年団体験会の実施(4/23、参加者:37名)。</li> </ul>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公営塾 上士幌中学校生徒受講率 夏期 69% 冬期 66%</li> <li>・学習意欲の向上や家庭学習の定着、基礎学力の定着が図られてきている。</li> </ul> <p>(成果)</p> <p>子ども達の体力の向上が図られた。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化が激しいため、計画的な更新が必要である。</li> <li>・子ども達が参加しやすい教室等を開催し、参加者の増加に向けた取り組みが必要である。</li> </ul> <p>(成果)</p>

<p>○地域資源を生かした体験活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土を学ぶ体験、自然環境を生かした体験、基幹産業に触れ合う体験</li> <li>・体験活動の単位化を検討</li> </ul> <p>○子ども発達支援センター事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進</li> <li>・途切れのない支援体制確立</li> </ul>	<p>○上士幌まるかじり体験学校（仮称）の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活かした体験活動の体系化</li> <li>・本町の自然環境を活かした体験活動を開発</li> </ul> <p>○乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる。</p>	<p>一部類似事業の統合を行うとともに、地域資源をいかした特色のある体験事業を実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ振興助成の実施（26件）。</li> <li>・かみっ子ふるさと体感塾（4回）を実施し、体験の効果を客観的に捉えるIKR（生きる力）調査を行った。</li> <li>・土曜学習推進事業、放課後対策事業における体験プログラムの提供。</li> <li>・生涯学習ラリーの事業内容の充実（チーム制、商店街で体験等）を図り、地域資源を活かす体験プログラムを実施（10/7、17チーム65名参加）。</li> <li>・自然環境教育推進事業としてNPOひがし大雪自然ガイドセンターに委託し、認定こども園、小中学校において体験学習の実施（43回）。</li> <li>・高校における「上士幌学」の実施 上士幌町及び十勝の自然、郷土史、特産品開発（受講生26名、89回実施）。</li> <li>・各事業延べ件数 (1) 発達相談件数 60件 (2) 通所支援件数 発達支援偉業 262件 放課後デイサービス事業 12,600件 (3) 母子保健協力件数 6件 (4) 関係機関との連携（教育相談含む）84回 (6) 相談支援事業（実数）46件</li> <li>・学校訪問の実施</li> <li>・こども園・保育所訪問の実施</li> <li>・かえるのひろば実施 5回</li> <li>・研修会の実施 関係者向け研修会 3回うち2回が上士幌学園との共催 子ども向け研修会 6回 地域町民向け・保護者修会 2回</li> <li>・生涯学習事業キャンプ・生涯学習ラリーへ児童と参加</li> <li>・生涯学習課とのコラボ企画 2回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年団への加入促進が図られた。</li> <li>・全道・全国大会等への参加に係る経費の一部を助成して、負担軽減と優秀な成績を讃えた。 （課題）</li> <li>・少年団、部活動加入者の推進と指導者の確保に努める必要がある。</li> <li>（成果）</li> <li>・IKR（生きる力）調査の総合結果から、全体指標である「生きる力」について向上がみられた。</li> <li>・子ども達が郷土の歴史や自然等について学びを深めることにより、郷土に対する理解と誇りが培われた。 （課題）</li> <li>・新たな体験活動の開発を進めながら、幼保小中校のつながりを意識し、発達段階に応じた体験プログラムの構築等、町全体の体験活動の体系化を進める。</li> <li>（成果）</li> <li>・「わか」への移転により、発達支援センターの存在が身近に捉えられてきている。</li> <li>・運動器具の充実により、体づくりを中心とした取り組みが充実した。</li> <li>・生涯学習課と共同企画をする機会が増え、取り組みの幅が広がった。</li> <li>・学童保育所との連携が図られ、療育内容の幅が広がった。 （課題）</li> <li>・思春期の子ども達へのボランティア育成やスキルトレーニングなどを実施していく必要がある。</li> </ul>
--	--	--	--	--



			<p>日高青少年の家共済プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映画上映 1回 (みんなの学校)</li> <li>・心理検査・作業療法士・言語聴覚士の子どもの発達の評価の実施</li> </ul> <p>30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した運動器具を活用した地域開放日の設定。</li> </ul>			
<p>◇魅力ある上士幌高等学校の振興支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の支援による活性化</li> <li>・キャリア教育(一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育てていく教育)の推進</li> <li>・学力向上、進学対策の推進</li> <li>・遠距離通学者や通学困難者の民間下宿、又は寮整備の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元からの上士幌高校進学率 38% (H23~27平均) →50%以上</li> <li>・定員 80 人の入学生確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元からの進学率</li> <li>平成 28 年 27%</li> <li>平成 29 年 31%</li> <li>平成 30 年 15%</li> <li>・入学者数</li> <li>平成 28 年 60 名</li> <li>平成 29 年 80 名</li> <li>平成 30 年 50 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度からの振興策の主な変更点</li> <li>①通学全額補助を 8 割補助へ減額 (H29 入学者より)</li> <li>②入学準備金の支給対象追加(士幌町)と支給額減額</li> <li>③新制服購入全額補助 (H29 入学者より)</li> <li>④大学入学奨学金増額 (H29 入学者より) 他</li> <li>⑤講習会(公営塾)の受講対象地域の士幌町追加</li> <li>・平成 30 年度振興策の見直し内容決定</li> <li>・近隣市町村への中学校訪問による働きかけの実施</li> <li>11校×2回</li> </ul>	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更に魅力ある選ばれる高校としていくため、平成 30 年度振興策の見直しを決定し、地元はもとより、士幌町・音更町・帯広市の各中学校訪問を実施し浸透を図られた。</li> <li>・公営塾受講率 夏期 24% 冬期 18% (上士幌町・士幌町在住上高生)</li> <li>・学習意欲の向上や家庭学習の定着、基礎学力の定着が図られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上高の充実した学校生活の良さや進路決定実績のPRが不十分であり、情報発信の改善を図る必要がある。</li> <li>・コミュニティ・スクール導入支援。</li> </ul>	教育推進課
<p>◇幼児から高齢者までが互いに学び育つ生涯学習センターを活用した世代間交流の促進 (H28)</p>	<p>施設年間利用者数 44,500 人 (H26)</p> <p>(学童保育所・発達支援センター含) →84,500 人 (H29)</p> <p>H30 以降各年 1,800 人増</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年度 6 月～平成 30 年 3 月入館者数 185,382 人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育所、発達支援センター、生きがいセンター、図書館等の機能が集約された生涯学習センター「わか」が 6 月 1 日に開館。</li> <li>・サークル活動や会議、講演会等の利用の増加、カフェくれよんの営業等。</li> </ul> <p>30 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の利用と世代間交流を促すための「わかふれあいの日」の設定</li> <li>・利用環境を向上させるための駐車場整備等を行う。</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル活動や会議、講演会等の利用やカフェくれよんの営業等により世代間交流が図られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の利用と世代間交流を促すための取り組みを進める必要がある。</li> <li>・手狭な駐車場など、利用環境の向上が必要。</li> </ul>	生涯学習課

《別記》 事業目標の進捗状況 (全国学力・学習状況調査 小学 6 年・中学 3 年実施より)

事業目標	過去 5 年間の平均	平成 27 年度調査結果	平成 28 年度調査結果	平成 29 年度調査結果	平成 31 年度目標
・将来の夢や目標を持っている児童・生徒	小学校 89% 中学校 68%	小学生 94.8% 中学生 71.8%	小学生 89.1% 中学生 71.4%	小学生 92.3% 中学生 61.7%	小学校 100% 中学校 100%
・授業以外の勉強時間 1 時間以上の児童生徒の割合	小学生 平日 43% 土日 51% 中学生 平日 57% 土日 59%	小学生 平日 52.7% 土日 73.7% 中学生 平日 48.7% 土日 53.8%	小学生 平日 45.4% 土日 49.0% 中学生 平日 35.6% 土日 40.4%	小学生 平日 38.4% 土日 36.0% 中学生 平日 38.2% 土日 49.9%	小学生 平日・土日共に 80%以上 中学生 平日・土日共に 80%以上
・朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学生 99% 中学生 93%	小学生 97.4% 中学生 92.3%	小学生 92.8% 中学生 88.1%	小学生 97.5% 中学生 91.2%	小学生 100% 中学生 100%

◇子どもの健やかな成長支援

KPI

妊婦相談実施率	100%	達成度(29年度末)	100%			
赤ちゃん訪問実施率	100%	達成度(29年度末)	100%			
乳幼児健診受診率	100%	達成度(29年度末)	100%			
実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇妊婦相談(H26 100%)	100%	100%	・全ての妊婦と面談を実施	A	(成果) 全ての妊婦と面談し、必要な支援を実施することができた。	保健福祉課
◇赤ちゃん訪問(H26 100%)	100%	100%	・全ての赤ちゃんと保護者に対し家庭訪問を実施	A	(成果) 全ての家庭に訪問し、必要な支援を実施することができた。	保健福祉課
◇乳幼児健診(H26 98.6%)	100%	100%	・対象者全ての乳幼児健診を実施	A	(成果) 対象者全員に健診を実施することができた。	保健福祉課
◇子ども発達支援センター事業の充実 ・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進 ・途切れのない支援体制確立	乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる		「◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化」の「○子ども発達支援センター事業の充実」と同じ内容のため、記載省略	B		教育推進課

◇命の尊さを確認し心豊かな成長と家庭形成に向けた支援

KPI

生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率	100%(H26 100%)	達成度(29年度末)	100%
学童・思春期に対する心の健康講座実施率(中学校・高校・保護者)	100%(H25 高校生実施)	達成度(29年度末)	100%
20歳から39歳まで女性有配偶者率	増加	達成度(29年度末)	—

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇生教育事業 ・発達段階に応じた生教育の実施	生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率 →100%(H26 100%)	100%	・中学校3回、小学校2回、年長児1回の授業を継続的に実施	A	(成果) ・認定こども園及び小中学校との連携のもと、予定回数の授業が実施できている。 (課題) ・中学校と授業を評価し、幼児、学童期ですでに実施した内容をスリム化するなど内容の改善を図る必要がある。 ・今後も授業内容充実のため関係機関との連携を強化する。	保健福祉課
◇こころの健康づくり支援事業 ・学齢期・思春期に向けた心の健康づくりに関する知識	学童・思春期に対する心の健康講座の実施率(中学	100%	・発達支援センターによる教育ジャーナリストを講師とした自殺予防に関連する講座を実施(小中高生)(関	A	(成果) ・自殺予防講座や学習会の実施による知	保健福祉課

<p>の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と連携した相談支援体制の強化</li> </ul>	<p>校・高校・保護者) → 100% (H25 高校生 実施)</p>		<p>係者向け)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援センターとの共同開催により依存症に関する自殺予防学習会を実施した。(保護者・中高校生・関係者向け)</li> </ul>	<p>識の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援センターと共同開催することにより学校などへ広く周知ができた。</li> </ul>	
<p>◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援</p>			<p>取組の実施に応じて支援</p>		<p>企画財政課 商工観光課 農林課 農業委員会 事務局</p>
<p>◇子育てを通じた男女共同の推進支援</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児の喜びを実感できることを目指し「マミーズプラザ(妊娠期・講座Ⅰ)」「カンガルー教室(親子ふれあい体験)」を実施。</li> <li>・「マミーズプラザ講座Ⅰ」 年3回実施 参加人数 延べ9名(うち父親 延べ1名)</li> <li>・「カンガルー教室」 年4回実施 参加人数 延べ24名(うち父親 延べ2名)</li> </ul> <p>※「◇出産や子育てにおける安心の確保」の実施予定事業「地域で育む子育てサロンの開設」に記載。</p>	<p>B</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父母が育児の知識を得るのみでなく、参加者同士の交流の場にもなっており、教室の満足度は高い。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親については、仕事等の都合で参加できない場合がある。</li> <li>・個別に勧奨を行うなど、参加しやすい環境づくり。</li> </ul>	<p>保健福祉課 幼児教育課</p>

### 3 健康で安心して暮らせるまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(29年度末)
健康寿命の延伸（不健康な期間の短縮）	【平均寿命－健康な期間の平均＝不健康な期間の平均】 (H25) 男性 81.84 歳－80.52 歳＝1.32 歳 (H25) 女性 86.88 歳－83.39 歳＝3.49 歳 ※厚生労働科学研究費補助金 「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」より	男性 1.0 歳 女性 3.0 歳	（厚生労働省の推定値、国民生活基礎調査を基に算定するため今年度は算出できず）
要介護認定率	17%（H27年6月現在）	19.0%（H32年第6期介護保険事業計画値20.16%）	18.3% / 100%

#### ◇健康管理の習慣化を促進

##### KPI

乳がん・子宮がん検診受診率	100%	達成度(29年度末)	子宮 30.0% / 乳 34.0%
特定健診実施率	60%	達成度(29年度末)	53.8% / 89.6%
肥満（BMI 25以上）の人の割合	28%	達成度(29年度末)	33.8% / 79.3%

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇生活習慣病の発症・重症化予防の推進 ・特定健康未受診者への勧奨 ・健診結果説明会の充実 ・健診受診者へのスタンプポイント事業 ・食育に関する普及啓発促進	特定健康診査実施率→ 60% (H21～H25 平均 42.6%) 特定保健指導実施率→ 65% (H21～H25 平均 59.6%) 肥満(BMI25以上)の人の割合→ 28% (H25 29.3%)	H28 法定報告で 実施率 46.3% H29 年度推定で 実施率 53.8% H28 法定報告で 実施率 69.8% H29 年度推定で 実施率 64.8% H28 法定報告で 肥満割合 29.2% H29 年度推定で 肥満割合 33.8%	・特定健診及び20～30歳代の基本健診の無料化 ・地区担当による未受診勧奨訪問の充実 ・地区担当による健診結果説明や訪問指導の充実 ・特定健診委託先の拡大 ・2次検査対象者拡大 ・健康マイレージ事業の継続 ・栄養コラムや健診会場の栄養改善に関する情報提供の充実 30年度 ・スマートライフかみしほろの普及 ・新たな健康マイレージ事業の検討と実施	B	(成果) ・特定健診未受診勧奨、特定保健指導を充実したことで、健診受診率及び特定保健指導率が上昇している。 (課題) ・肥満割合が増加しているため、食生活改善、運動習慣改善等が重要であり、スマートライフかみしほろによる普及啓発の推進や保健指導の充実が課題。 ・健康マイレージ事業については、道主体事業の終了により、町独自の事業実施が課題。	保健福祉課
◇がん検診受診促進事業（医療との連携） ・乳がん予防キャンペーン講演会の開催 ・乳がん専用PET検診費用の助成	乳がん・子宮がん検診（好発年齢）受診率→100% (H26 19.8%) 胃がん・肺がん・大腸がん検診（好発年齢）受診率→ 20% (H26 17.0%)	H29 年度推定で 子宮 30.0% 乳 34.0% 胃 19.2% 肺 15.9% 大腸 15.9% ※対象年齢（子宮 20	・乳がん検診30歳代拡大（H29～） ・乳がん・子宮がん対象者へ個別案内 ・人間ドックの胃カメラ検診導入 ・胃がん・肺がん・大腸がん特定健診対象者へ個別案内 ・乳がん専用PET検診 13名受診 30年度	B	(成果) ・乳がん検診対象者を40歳以上から30歳以上に拡大したことで、30歳代は20人の受診があった。また、40歳～69歳では、13人がPET検診を受診しており、若い世代の受診行動や乳がんの超早期発見に効果をあげている。	保健福祉課

		～69歳、乳、胃、肺、大腸 40～69歳 ※乳がん検診は、国報告に準じ、ペット検診を受診率に含まず。	・大腸がんイベントの開催による普及啓発		・人間ドックの胃カメラ検診導入により胃がんの早期発見早期治療にむすびついている。 (課題) ・女性がんキャンペーン事業開始により一時的に受診率は伸びたが、その後やや減少傾向。定期的な受診が根付くよう普及啓発の充実が課題。 ・胃肺大腸の受診率が伸び悩んでいるため、特定健診と合わせて受診勧奨を継続することが必要。大腸がんは罹患や死亡もあるため、普及啓発が必要。	
◇心の健康づくり推進 ・相談体制の整備 ・メンタルヘルスや自殺予防に関する普及啓発	自殺による死亡者数→0人(年平均2人 ※H20～24)	2.2人 ※H24～28	・心の相談日継続実施 ・自殺予防講演会(1回)、自殺予防講座実施(2回) ・自殺対策強化月間に自殺予防及び相談場所に関するパネル展示による普及啓発	B	(成果) ・心の相談日の開催やパネル展示、講演会の実施により相談機会を確保し自殺予防に対する正しい知識の普及ができた。	保健福祉課

◇地域包括ケアシステムの実現

KPI

小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数	0人(H26末)→24人	達成度(29年度末)	20人 / 83.3%
まるごと元気アッププログラムへの延参加人数	15,600人(月65人×48週×5年)	達成度(29年度末)	5,293人 / 33.9%
地域活動支援センター等利用者数	13名(H26年 8名)	達成度(29年度末)	13名 / 100%

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇地域医療を支えるための医療従事者等の確保 ・医師・看護師等の確保対策支援 ◇24時間365日を支える医療・介護体制の整備 ・救急医療体制の充実 ・在宅支援診療所の整備 ・医療・介護の連携 ・セラピストによる在宅リハビリテーション支援の実施 ・発達障がい児へのリハビリアプローチ ・介護職員初任者研修実施事業	医療機関等の数の維持 診療所2カ所、歯科医院2カ所、調剤薬局2カ所 訪問診療件数 (町内医療機関2カ所合計) 訪問看護件数(医療・介護含む) 訪問・通所リハビリの利用者数の増加 医療介護連携にかかる協議会開催数→年3回(H28中に協議体設置)	・維持できている  訪問診療件数 延 1,470件 訪問看護件数 延 171件 訪問リハビリ利用増 通所リハビリ利用増  ・関係機関との協議と上土幌クリニックとの協議を計5回実施	・訪問診療件数(1カ所) 年間延べ 1,470件 ・訪問看護件数(医療・介護含む) 上土幌クリニック 延べ訪問件数 78件 訪問看護ステーション 延べ訪問件数 93回 ・訪問リハビリ実利用者数 4月13人→3月末15人 ・通所リハビリ実利用者数 4月56人→3月末55人 ・6月にケアマネに対する訪問看護利用促進に向けた研修会を実施。 ・医療介護連携協議体を設置し、年4回協議を行う。 ・医療介護連携に係る関係職員の研修 年1回実施。 ・住民に対する在宅医療・介護に関する講演会実施。 ・介護職員初任者研修をまちづくり会社に委託し実施。 30年度 ・調剤薬局や歯科医院からの訪問支援(居宅療養管理指導)体制の構築。 ・研修、会議等の継続による、医療・介護連携の推進	B	(成果) ・訪問診療や訪問看護ニーズに対応できている。 ・リハビリ機能が充実し、老健の入退所についても連携が図り易くなった。 ・10月に医療・介護関係者の研修を実施し、町内の関係機関及び多職種連携の第一歩が踏み出せた。 ・12月に住民向け講演会を実施。町内の医療介護福祉に関わる社会資源や専門職の見える化を図り、町民の理解を得られた。 (課題) ・更なる医療・介護連携の推進が必要 ・医師の高齢化により、安定的な医師体制の確保が必要	保健福祉課

<p>◇介護度の維持及び重度化防止のための介護サービスの充実と利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅・施設・地域密着型サービスの充実</li> <li>・介護サービスの質の向上</li> <li>・利用者負担への支援</li> </ul>	<p>介護度の改善率の上昇 施設サービス利用者の割合 23.2% (H26 末) → 維持 小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数 0 人 (H26 末) → 24 人</p>	<p>要介護認定更新・区分変更者における介護度維持・改善率 72.4% (年度末) 要介護認定率 18.3% (年度末) 施設サービス利用者 19.9% (年度末) 小規模多機能型登録数 20 人 (年度末)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効期間内にサービス利用の実績がない対象者へは更新しないことを勧奨した。</li> <li>・老健退所後の受け皿となる在宅サービスとして小規模多機能型居宅介護を活用された。</li> </ul>	<p>B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護認定率の上昇を抑えられている。</li> <li>・急性期病院から退院する際に、老健でリハビリし在宅復帰の準備をするなど、利用者や家族が安心して在宅生活に移行できるよう支援できている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスの質の向上</li> </ul>	<p>保健福祉課</p>
<p>◇介護予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健常時からの動機づけや生活習慣改善に向けた支援の強化</li> <li>・官・NPO・大学との協働事業の推進(健康づくり・生きがいがづくり・人づくりに効果)</li> </ul>	<p>まるごと元気アッププログラムへの延参加人数 15,600 人 (65 人 × 48 週 × 5 年)</p>	<p>延参加人数 5,293 人 達成率 33.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まる元の参加者を増やすため、積極的な周知を図った。</li> <li>・年 1 回のお元気度測定会の実施によって、心身機能の低下がみられる者を早期発見、早期対応を図った。</li> </ul>	<p>B</p>	<p>(成果)</p> <p>登録人数が定員 75 名に対し 71 人となり、参加率も 7 割を超えている。8 月末にお元気度測定会を実施し、113 名の参加があった。年々参加者が増えており、介護予防意識の啓発に効果が出ている。</p> <p>(課題)</p> <p>まる元運動教室及び測定会への参加者拡大。他の介護予防に係る事業やサービスとの連携が課題。</p>	<p>保健福祉課</p>
<p>◇認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及啓発及びパンフレット作成</li> <li>・認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催</li> <li>・認知症ケアパス作成</li> <li>・高齢者の見守り体制の構築</li> </ul>	<p>認知症施策にかかる協議体の設置及び協議会開催数 → 年 3 回 認知症初期集中支援チーム(専門サポート医等による対応 事例数) → 年 3 事例 認知症ケア講演会の実施 認知症カフェの数 → 1 か所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十勝広域 2 回</li> <li>・町主催 1 回</li> <li>・3 事例実施</li> </ul> <p>講演会は未実施 認知症カフェの開催 (8 月、11 月、2 月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中支援チームによるサポート 3 事例</li> <li>・認知症に関する知識の普及啓発 中学校、高校、介護支援サポーター養成講座、地域サロン等での講座実施</li> <li>・認知症カフェの開催 1 か所 3 回開催</li> </ul> <p>30 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症初期集中支援チームによるサポート 4 事例</li> <li>・近隣自治体と共同連携による新たな徘徊見守りシステム(オレンジセーフティーネット)の整備検討</li> </ul>	<p>B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医療機関への委託によりサポート医を確保し、対象となる事例を支援することが出来た。</li> <li>・認知症カフェやサロン等での普及啓発を展開した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徘徊や常時見守りが必要なケースが増えつつある。</li> <li>・省電力遠距離通信機器の活用で外出時にも対応可能な見守りシステムの調査検討中。深夜、休日などに徘徊した際に駆けつける人員体制の整備と一時保護する場所が課題</li> </ul>	<p>保健福祉課</p>
<p>◇住民のニーズに適応した隙間のない支援と住民による支えあい活動により高齢者が不安なく過ごせる環境づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉協力員制度創設事業(高齢者等見守り体制の構築)</li> </ul> <p>◇買い物や通院、見守りを支援する仕組みの構築</p>	<p>小地域ネットワーク活動等地域活動の数 → 各行政区に 1 か所 生活支援にかかる協議体の設置及び協議会の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議体の設置は、当面生活支援体制整備に係る研究会から移行して設置</li> <li>・協議会は未実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町と社会福祉協議会で町内会へ活動の実態調査を開始した。4 月の市街地連絡協議会の役員会にて、実態調査の説明実施。その後、社協事業において 6 区、8 区、9 区に小地域ネットワークの構築について案内し、9 区を先行地区として進めることとなった。11 月 1 日、</li> </ul>	<p>B</p>	<p>○実態調査</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9 区での各戸訪問の際に得た緊急連絡先を一覧表にし、9 区と情報共有ができた。</li> </ul>	<p>保健福祉課</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急通報システム</li> <li>・除雪費助成事業</li> <li>・高齢者等福祉バスの運行</li> <li>・地域における互助活動推進（自主防災組織・サロン等）</li> <li>・元気高齢者による買い物代行サービスの実施</li> </ul>	<p>数→年2回</p>		<p>9区役員との地域状況ヒアリングを経て、9区行政区長が各戸を訪問した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等福祉バス運行経路拡大とバス運行でカバーできない細かな移動サービスへの対応検討（通院サービスの検討など）</li> </ul> <p>30年度 ○実態調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査地区の拡大を進める。調査結果をもとに、その地域に何が必要か、町全体としての新たなサービスが必要かを検討する。将来的には日常の声掛け体制や自主防災組織、地域サロンへの発展を目指す。</li> </ul> <p>○高齢者等福祉バス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の要望により、高齢者等福祉バス：市街地循環線を週2日から週3日（火・水・金）へ変更した。市街地便と農村便を乗り継ぎなしの別車両を使用することにより、農村便朝1便を30分程度、時間を遅らせて運行する。</li> </ul>	<p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協（地域福祉コーディネーター及び生活支援コーディネーター）と役割分担のもと、地域との情報共有。</li> <li>・調査後の小地域ネットワーク立ち上げに対する支援。</li> <li>・調査及び調査後の課題解決に対する人員体制</li> </ul> <p>○高齢者等福祉バス （成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センターのリニューアルの際に、市街地の経路拡大とともに、最終便の運行時間を早めることで、利便性向上した。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行対象の拡大（コミュニティーバス化）を検討するとともに、バス以外で対応できない細かな移動支援の検討。ただし、移動支援だけではなく、活動する場（気軽に集える場）の創出も合わせて行う必要がある。</li> </ul> <p>○緊急通報システム （成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11件の救急搬送につながっている。29年度末で75世帯に設置。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣との関係希薄や家族が遠方等により緊急協力員の確保が困難な事例がある。</li> </ul>	
<p>◇高齢者の住まいの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者見守り付安心住宅の整備</li> <li>・住宅改修やリフォーム費用の助成事業</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅改修30件、うち上乗せ助成2件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の在宅生活を支えるため、必要な改修に支援した。</li> </ul>	<p>B</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅改修30件、うち上乗せ助成2件</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症や単身高齢者が増加しており、高齢者見守り付き安心住宅の整備が課題</li> </ul>	<p>保健福祉課 建設課</p>
<p>◇権利擁護センター機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度をはじめとする権利擁護事業の利用促進</li> </ul>	<p>市民後見人養成研修の受講者数6人(H26年度)→15人 権利擁護センター(法人後見)の成年後見制度受任件数1人(H27年8月)→5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民後見人養成研修受講者8名</li> <li>・権利擁護センターの支援により社会福祉協議会を成年後見人候補者として2件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年に申立て支援を行った事例について、社会福祉協議会による法人後見支援を予定しており、合わせて、市民後見人養成研修の修了者による法人後見支援員としての活動を期待し、その活動を支援する。</li> <li>・介護支援専門員はじめ、金融機関等からの権利擁護に関する相談を受け、金銭管理が困難となっている高齢</li> </ul>	<p>B</p> <p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣3町社会福祉協議会との共同により市民後見人養成研修を実施</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民後見人養成研修修了者による法人後見支援員としての活動の支援が必要</li> </ul>	<p>保健福祉課</p>

<p>◇生きがいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等の外出の機会を増やし、生きがいとなる活動の機会と働く場を確保する</li> <li>・高齢者の居場所づくり（地域サロンの開催・まちなかサロン・サークル活動・老人クラブ活動など）</li> <li>・地域活動ボランティアの育成</li> <li>・元気高齢者の短時間就労の構築</li> </ul>	<p>65歳以上で週1回、各種活動の参加割合→70%</p> <p>福祉ボランティア登録人数(社会福祉協議会所管)→80人</p> <p>生きがい事業団(仮称)の設置→1か所</p>	<p>が申立てを行った。</p> <p>・日常生活圏域ニーズ調査結果に見える「週1回以上の外出がある」人の割合 86.8%</p> <p>・福祉ボランティア登録人数 維持</p> <p>・ボランティアポイント制度登録者 34人(5人増)</p>	<p>者等の生活を支えていく。</p> <p>・ボランティアポイント事業の運営主体を社協のボランティアセンターに移行して実施。</p> <p>・4事業所(社協、上士幌福寿協会デイサービス、地域密着型施設での地域食堂、老健かみしほろデイケア)が受入れ機関となり、ボランティア活動が行われた。</p> <p>・ボランティアミーティングを実施し、活動に必要な学習や活動者同士の交流を促している。</p> <p>・実態調査について、「◇住民ニーズに適応した隙間のない支援と住民による支えあい活動により高齢者が不安なく過ごせる環境づくりを目指す」(前ページ)の調査と一体的に実施した。</p> <p>・まちづくり会社において、生きがい事業団(シルバー人材センター的)的機能も想定した人材センターが設立された。</p> <p>30年度</p> <p>・実態調査を通じて行政区や民生委員と協働し、困りごとの把握や要配慮者の把握を進め、小地域ネットワーク立ち上げのモデル地域を作り、継続支援を行う。</p> <p>・調査は社協にH30年4月から配置された生活支援コーディネーターなど社会福祉協議会のスタッフと連携し進める。</p> <p>・人材センターの運用開始。</p>	<p>B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協でボランティアポイント事業の運営を行い、軌道に乗りつつある。</li> <li>・年4回ボランティアミーティングを開催することで、支援技術の向上や活動意欲につながっている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア登録者の増加に向けた取り組みと受け入れ機関の拡大、活動内容の充実。</li> </ul> <p>○実態調査</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地行政区連絡協議会役員会に調査内容を周知した。</li> <li>・9区と役割分担のもと、情報の把握と共有ができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が主体となる取り組みへの支援。</li> <li>・調査範囲の拡大と調査及び調査後の課題解決に対する人員の確保。調査後の小地域ネットワーク立ち上げに対する支援。</li> </ul>	<p>保健福祉課</p>
<p>◇障がい者雇用の促進・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業への就労の理解</li> <li>・障がい者福祉的就労の場の確保</li> </ul> <p>◇国等による障がい者就労施設等からの物品等の調達</p> <p>の推進</p>	<p>障がい者就労継続支援B型事業所の設置→1か所</p> <p>物品等の調達目標 2,000千円(H26)・1,571千円(H27)</p> <p>(現状:花苗・指定ごみ袋保管・配送業務・花壇整備・管理業務など)</p>	<p>就労継続支援B型事業所 1カ所</p> <p>物品等の調達実績 3,648,395円</p> <p>182.4%</p>	<p>・就労継続支援B型事業所の運営費を補助した。</p> <p>・同事業所が運営する生涯学習センター内カフェ及び清掃委託業務に要する物品導入を補助した。</p> <p>・町が障がい者就労施設等から物品等の調達実施。</p>	<p>B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B型事業所において、H29.6から生涯学習センター内でカフェ運営・清掃委託を受注したことにより雇用の拡大となった。工賃向上などにより事業所利用者の就労意欲や利用率が向上した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B型事業所の支援員の確保及び利用実績向上による安定的な事業所運営。</li> <li>・物品調達推進～工賃向上のため、施設等と協議し、実施可能な業務の確認作業が必要。</li> </ul>	<p>保健福祉課</p>
<p>◇町内障がい福祉サービス事業所(地域活動支援センター等)への通所利用促進</p>	<p>地域活動支援センター等利用者数(H26年8名)→13名</p>	<p>利用者数 13名</p> <p>100%</p>	<p>・潜在的な利用ニーズの把握に努める。</p> <p>・平成29年度中の新規利用者1人(就職による退所1人のため利用者数の増減0人)</p>	<p>B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と連携しながら訪問支援を行い、潜在的な利用ニーズの把握に努めた。</li> </ul>	<p>保健福祉課</p>



#### 4 移住定住による人口減少をくい止めるまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(29年度末)
転入・転出入口	転出超過250人（2010～2014）	転入155人 転出90人（転入超過65人）	転入超過 190人 / 292.3% (H27年度 48人、H28年度 67人、H29年度 75人)

◇ひとの流れをつくる多様な就労拠点の整備と地域住民による受け入れ体制の構築

KPI

移住相談件数に対する移住件数の割合 1.5%（過去5年）	2.0%/年	達成度(29年度末) 2.5% / 125%
------------------------------	--------	------------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇テレワークの推進			・事業を継続し、新たな活用企業の誘致・募集を行った。	B	（成果） 平成28年度に事業を活用した株式会社 トラストバンクが、事業終了後も継続し てコールセンターを運営している。 （課題） 新たな活用企業の誘致に向けたPRを強 化し、事業期間が最低1年以上など募集 要項の要件見直しを検討する必要があ る。	企画財政課
◇企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）の活用			30年度 対象となる新規事業等の実施にあわせ活用する。	C	（課題） 本制度を活用できる事業実施の予定がな い。	企画財政課
◇町民が上士幌町の魅力を伝える事業（道の駅整備等と連携）			・道の駅基本設計、ナイタイ高原牧場レストハウス基本 設計・実施設計が完了した。設計にあたって、関係団体・ 住民で組織する「道の駅等整備推進委員会」を5回開催 し検討してきた。 ・各施設の運営主体となる「観光地域づくり推進法人 （DMO）」設立に向けた検討を、関係団体・住民で組 織する「設立検討委員会・プロジェクトチーム」で行っ た。検討委員会は6回、プロジェクト会議は8回と3地 域の視察研修を実施している。 ・各施設設計及び観光地域づくり推進法人設立の検討 状況について、「町民説明会」を3回開催。また、団体、 事業者に対する説明やヒアリング、町広報等による情 報提供に努めてきた。  30年度 道の駅の実施設計を実施。	A	（成果） ・各施設設計及び観光地域づくり推進法 人設立の検討を連携して進めており、運 営側の意見を施設設計に反映することが できた。 ・ナイタイ高原牧場レストハウスは、実 施設計が完了し、平成30年度に建設工事 を実施する。平成31年6月のオープンを 目指した準備を行う。 ・観光地域づくり推進法人は、関係団体、 機関、企業の理解のもと、平成30年5月 に上士幌町観光地域商社として「株式会 社 karch」（カチ）が設立される。観光を 切り口として、電力小売り等多様な事業 を展開し、産業振興や地域づくりに貢献 していく。	商工観光課

					(課題) ・道の駅実施設計や観光地域商社事業活動など、町民をはじめ、関係機関、団体、事業者から様々な意見を頂きながら推進する必要がある。
--	--	--	--	--	---

◇かみしほろの発信力と価値の向上による交流と定住促進

KPI

イベント参加人数に対する相談件数割合 3.3%	4.0%/年	達成度(29年度末)	11.3% / 282%
ふるさと納税特典品として旅行商品を開発することによる入込客数	50組100人増加	達成度(29年度末)	434人 / 434%
特別町民証の発行による来訪者数	500組1,000人増加	達成度(29年度末)	0人 / 0%

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇移住定住プロモーションの推進	移住・二地域居住者数 15名(H26)→20名/年	22名	※移住総合窓口で対応した数値 ・北海道暮らしフェア(東京 11/11) 57件 ・北海道暮らしフェア(大阪 10/15) 71件 ・北海道暮らしフェア(名古屋 10/14) 40件 ・本気の移住相談会(東京 6/24) 24件 ・北海道ミニ暮らしフェア(東京 1/28) 11件 ・北海道ミニ暮らしフェア(大阪 3/3) 10件 ・上士幌暮らしセミナー①(東京 9/16) 6件 ・5町合同暮らしセミナー(東京 11/12) 6件 ・上士幌暮らしセミナー②(東京 11/12) 23件 ・上士幌まるごと見本市ツアー①(9/29-10/1) 31件 ・上士幌まるごと見本市ツアー②(2/16-18) 34件 ・上士幌まるごと見本市ツアー③(2/23-25) 29件 合計 相談件数 342件 来場者数 3,018人 ・移住テレビCM ~ HTB 1-2月 15秒22回	A	(成果) ・継続的、効果的に上士幌町の優位性等をPRしたことにより、移住・二地域居住の推進が図られた。 ・H29は前年度比較(77-除く)でフェア等に3回多く参加し、相談機会の拡大を図った。 ・H29の移住二地域居住者は、22名と単年度としては過去最高の人数となっており、事業目標を2名上回っている。 (課題) ・移住相談件数を増加させ、移住・二地域居住者を増加させるために、継続的に上士幌町に住んだ際の優位性のPRを行っていく必要がある。	商工観光課
◇ふるさと納税寄付者との交流の推進			・「上士幌まるごと見本市ツアー」を3回開催し、寄付者にまちの暮らしを体感してもらうことで、地方への移住を本格的に検討する機会を提供する。 【ツアー内容】 ・セントラルベルトを中心とした公共施設見学 ・各種住環境の見学 ・町内の仕事に関する説明会 ・ウェルカムパーティ ・熱気球体験搭乗及びバーナー体験 ・季節に応じた体験・自然環境見学 他	A	(成果) 1回目(9/29~10/1) 31名 2回目(2/16~2/18) 34名 3回目(2/23~2/25) 29名 計94名来町 ツアー満足度 100点満点中91点(3回合計) ツアー後の移住・二地域居住の検討者 62%(3回合計) ※ツアー後の移住説明会参加やお試し体験住宅の申込・問合せ~数名	企画財政課
◇移住・定住相談の充実	移住相談件数 470件(H26)	865件	移住相談件数 865件	A	(成果)	商工観光課

	→600件(単年度)	144.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント時相談件数 342件</li> <li>・コンシェルジュへの相談 523件</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロモーション活動やホームページ・SNSの充実を図り、コンシェルジュへの相談件数増が図られた。相談件数は、事業開始以来、初めて500件を超えた。</li> <li>・継続的、効果的に上士幌町の優位性等をPRしたことにより、移住・二地域居住の推進が図られた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住相談件数を増加させ、移住・二地域居住者を増加させるために、継続的に上士幌町に住んだ際の優位性のPRを行っていく必要がある。</li> </ul>	
◇ふるさと納税による交流人口増加対策			<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会と協力し、ぬかびら源泉郷や町施設にて使用できる「ぬかびら源泉クーポン」を返礼品として、実施。</li> </ul> <p>30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにより「起業家支援プロジェクト」「移住交流プロジェクト」の2プロジェクトを開始し、支援いただいた寄附者に、オープンするお店の食事券、ぬかびら源泉クーポン、移住体験住宅の優先利用権などのインセンティブをつけ、交流人口の増加を図る。</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <p>ぬかびら源泉クーポンを返礼品として発行。これまでに434件の寄付の申込をいただいた。</p>	企画財政課

◇滞在や定住に柔軟に対応する多様な施設整備

KPI

生活体験住宅数	5棟(H26)→10棟(H31)	達成度(29年度末)	8棟 / 80%
生活体験モニター参加者数	36組94名(H26)→50組150名(H31)	達成度(29年度末)	56組 157名 / 104.7%

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇生活体験住宅等の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験住宅の推進</li> <li>・民間賃貸住宅を活用した定住支援</li> <li>・多様な生活体験住宅の整備</li> </ul>		当初想定を上回る実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験住宅数 8棟</li> <li>※町設置～短期用2戸、中長期用4戸</li> <li>NPO設置～中長期用2戸</li> <li>・生活体験モニター参加数 56組 157名 (H28 63組 151名)</li> <li>・定住促進賃貸住宅建設助成事業 受付23棟36戸</li> <li>助成金額 60,000千円</li> </ul>	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験住宅は、前年度から2棟減少したたが、参加者数は増加させることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに生活体験住宅の増加を検討する必要がある。</li> </ul> <p>※予算を上回る問い合わせがあり、平成30年度は助成制度の見直しを行った。</p>	建設課 商工観光課

5 小さな拠点形成を目指すまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(29年度末)
転入・転出入口	転出超過250人（2010～2014）	転入155人 転出90人（転入超過65人）	転入超過 190人 / 292.3% (H27年度 48人、H28年度 67人、H29年度 75人)

◇まちの整体（公共施設再編によるコンパクト化推進）

KPI

公共施設再配置	計画に基づく推進	達成度(29年度末)
---------	----------	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇多機能型生涯学習センターの建設（H28）			<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習センター落成式の開催（6月1日）</li> <li>改築工事（建築主体、電気設備、機械設備） 平成29年5月15日完成</li> <li>既存改修工事 平成29年6月27日完成</li> <li>外構工事 工期 平成29年7月4日～12月8日</li> <li>駐車場実施設計業務 業務期間 平成29年9月29日～11月30日</li> </ul> 30年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>利用環境を向上させるための駐車場整備等を行う。</li> </ul>	A	（成果） ・外構工事、駐車場実施設計業務は完了済み。 （課題） ・手狭な駐車場など、利用環境の向上が必要。	生涯学習課
◇老朽施設の解体撤去補助			町内の老朽施設の解体撤去に係る費用に対して1件当たり上限50万円の補助を実施した。 予算額：1,000万円	A	（成果） 老朽施設の解体促進が図られている 件数：16件 補助額：690万円 （課題） 所有者の高齢化や、町外に転出しているなどが主な理由と考えられるが、様々な方法で老朽施設の解体についてお知らせしても、申請に至らないケースがある。	町民課
◇小規模まちなか挿入型住宅整備		当初予定の整備事業は完了	まちなか居住を進めるため老朽化している公営住宅の建替として、まちなかの住環境整備を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>4棟8戸建設事業の実施</li> </ul>	A	（成果） まちなか住宅建設工事 2DK 1棟2戸、2LDK 2棟4戸3LDK 1棟2戸 （課題） 老朽化している公営住宅居住者の移転を進め、計画的な建替必要。	建設課
◇子どもや若者のための居場所づくり			<ul style="list-style-type: none"> <li>学童保育所、発達支援センター、生きがいセンター、図書館等の機能が集約された新生涯学習センター「わか」の供用が6月1日に開始。</li> <li>わか」の屋内外で利用できる遊具の貸出の実施。</li> </ul>	A	（成果） ・子どもからお年寄りまでが生き生きと過ごせる世代間交流を促進した。 （課題）	生涯学習課

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・予約のない会議室等を、自習等の場所として開放。</li> <li>・将棋クラブの開催（6回）。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間交流を促すため「わっかふれあいの日」等の取り組みを進める必要がある。</li> </ul>
--	--	--	--	--	--

◇移動の利便性向上

KPI

農村部から市街地までの利便性に対する充足度（H27調査）	向上	達成度(29年度末)
------------------------------	----	------------

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇地域交通ネットワークの構築			国の地方創生拠点整備交付金を活用し、基本計画に基づき、交通ネットワーク拠点の設計及び工事を実施した。	A	<p>（成果）</p> <p>施設整備が予定どおり進み、平成30年4月20日より供用開始</p> <p>営業所等案内窓口では、町内に営業所がある路線バス事業者が券売、バス案内だけでなく、観光案内業務等の行政サービスの一部も担う。</p> <p>路線バス、町内循環バス、都市間バス（帯広—旭川）の停留所として利用</p> <p>5月下旬からはスクールバスの乗車も行う予定。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設運営開始間もないことから、細かな課題が生じると思われるが、都度対応していく。</li> <li>・施設での交流や近隣公共施設や商店街への誘導などソフト面での充実を図っていく必要がある。</li> <li>・今後整備予定の道の駅との相互連携に向けた検討が必要。</li> </ul>	企画財政課
◇国道等主要道路の整備拡充による第2次・第3次医療への移動時間の短縮	（関係機関に要請）		・整備拡充の実現に向け、引き続き要望等を行った。	A	<p>（進捗状況）</p> <p>自由民主党政策懇談会及び国・北海道に対する事業要望項目として、国道241号片側2車線化を要望している。</p>	企画財政課

◇地域活性化拠点の整備

K P I

新規雇用人数	15人	達成度(29年度末)	—
--------	-----	------------	---

実施予定事業	事業目標	達成度(29年度末)	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備		—	<p>・道の駅基本設計、ナイタイ高原牧場レストハウス基本設計・実施設計が完了した。設計にあたって、関係団体・住民で組織する「道の駅等整備推進委員会」を5回開催し検討してきた。</p> <p>・各施設の運営主体となる「観光地域づくり推進法人(DMO)」設立に向けた検討を、関係団体・住民で組織する「設立検討委員会・プロジェクトチーム」で行った。検討委員会は6回、プロジェクト会議は8回と3地域の視察研修を実施している。</p> <p>・各施設設計及び観光地域づくり推進法人設立の検討状況について、「町民説明会」を3回開催。また、団体、事業者に対する説明やヒアリング、町広報等による情報提供に努めてきた。</p> <p>30年度 道の駅の実施設計を実施。</p>	A	<p>(成果)</p> <p>・各施設設計及び観光地域づくり推進法人設立の検討を連携して進めており、運営側の意見を施設設計に反映することができた。</p> <p>・ナイタイ高原牧場レストハウスは、実施設計が完了し、平成30年度に建設工事を実施する。平成31年6月のオープンを目指した準備を行う。</p> <p>・観光地域づくり推進法人は、関係団体、機関、企業の理解のもと、平成30年5月に上士幌町観光地域商社として「株式会社 karch」(カチ)が設立される。観光を切り口として、電力小売り等多様な事業を展開し、産業振興や地域づくりに貢献していく。</p> <p>(課題)</p> <p>・道の駅実施設計や観光地域商社事業活動など、町民をはじめ、関係機関、団体、事業者から様々な意見を頂きながら推進する必要がある。</p>	商工観光課

プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度（29年度末）
上士幌版生涯活躍のまちによる移住	—	30世帯50人	10人/20%

実施予定事業	事業目標	達成度（29年度末）	取組内容	評価	成果及び課題	担当課等
<p>◇上士幌版生涯活躍のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大都市高齢者の地方移住支援</li> <li>・地域社会との協働、スキルや知見の地域還元推進</li> <li>・多様なプログラムや自主活動の構築により健康でアクティブな生活の実現</li> <li>・地域包括ケアによる継続的なケアの提供</li> </ul>	<p>中高年齢者の移住</p> <p>30世帯50人</p>	—	<p>・事業主体（まちづくり会社）を設立し、生涯活躍のまちの取組みを推進した。</p> <p>（主な取組み）</p> <p>①地域包括ケアの充実</p> <p>ア 介護人材の養成・確保（初任者研修実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5名受講し全員終了、ボランティアセンター登録者1名</li> </ul> <p>イ 地域包括ケアに対する評価と提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家に依頼、各法人・団体等へのヒアリングを実施し評価と提言を取りまとめ</li> </ul> <p>ウ 障がい者グループホーム及び障がい者就労事業検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19施設への訪問等により調査・検討を実施</li> </ul> <p>②生涯活躍の場の創設</p> <p>ア 人材センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求人・求職、高齢者の働く場の現状把握を実施し、無料職業紹介所及び人材センターの運営（H30～）について検討</li> </ul> <p>イ （仮称）生涯学習大学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習大学の必要性・ニーズについて調査し、H30開講に向けた準備（カリキュラム・講師等の検討）を実施</li> </ul> <p>ウ まちなか空き家・空き地調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家33件、空き店舗9件、空き地24件について調査</li> <li>・空き家3件について有効活用の可能性あり</li> </ul> <p>⑤移住希望者募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主催セミナー3回、相談会1回、個別相談5組対応</li> <li>・関連団体等移住イベント参加2回</li> <li>・現地見学 企業2組、個人4組9名対応</li> <li>・本業務を契機としたH30移住予定者2組9名</li> </ul>	A	<p>（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年9月に、町及び関係団体が出資し（株）生涯活躍のまち かみしほろ（まちづくり会社）を設立し、業務を開始した。</li> <li>・短期間（半年間）の委託となったが、精力的に取組を行い、30年度実施事業に向けた検討や準備を予定どおり完了した。</li> </ul> <p>（課題）</p> <p>引き続きまちづくり会社と連携の上、計画的に事業を実施する必要がある。</p>	<p>企画財政課</p> <p>保健福祉課</p>

